

< 今日の説教のポイント マタイによる福音書1章18-25節 >  
イエス・キリストを信じる信仰の根拠と目的をここから一つずつ。

1 (18-20) 血の繋がらない父ヨセフの系図を追うマタイ。その理由。

現代人がここを読むと、マリアが不倫して身ごもったのではないことをまず考えるかもしれません。「そうではなく聖霊によるのだ=神様が起こされた)」(18,20)とあるのでそれは間違いではないですが、もっとマタイがここで言いたいことがあります。それは、イエス様は父ヨセフとは血の繋がりがありません。昔からの神様の約束「ダビデの末に救い主を与える (イザヤ書 11:1-10)」がイエス・キリストによって成就したことを告げようとして、ヨセフの系図をさかのぼるとダビデ、そしてさらに神の選びの民の最初アブラハムに至ることをこの箇所の前(1:1-17)で示しているのです。つまり、「イエス様は突然訳もなく現れた救世主などではなく、ここまでの神様と人間の長い歴史が関係している救い主なのだ」、とマタイは言おうとしているのです。旧約聖書に示された神様の世界創造以来の歴史、その中で示された人間の神様に背く姿とそれに対される神様の歴史、イエス様が神様から与えられる分厚い理由を示す歴史を見て信じられる内容を持つ信仰、それが聖書の信仰なのです。

2 (21-25) 真の神様に立ち帰り、真の神様と共に生きるために。

そうして与えられた救い主がどういう意味を持つ御方かを知らせてくれる二つの言葉が示されています。「イエス」と「インマヌエル」です。イエスはヘブル語のヨシュアから来ており、「ヤハウエは (の) 救い」の意味であり、これも旧約以来の分厚い神様の救いの歴史(救済史)が関係しています。また「インマヌエル」もヘブル語で「インマヌ (われらと共にいます) ・エル (神)」という意味で、イザヤ書 7:14 で神様の救いの到来を示す子の名に用いられています。この「インマヌエル」が、マタイによる福音書の一番最後の 28:20 で、洗礼を受け、主の教えを学び続けて生きる者に対してイエス様が「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と言われている所で出て来ます。イエス様を信じて生きる時に与えられるもの、それは、「いつどんな時にも、神様は私と共にいて下さるのだ」と思えるようになることなのです。これからもより強くそう思えるために、主の民の一員として生きつつ、主の教えをさらに学んでいこうではありません